

# 農業技術情報

令和4年8月1日

池田町農業構造政策推進協議会

十勝農業改良普及センター  
 十勝東部支所 015-572-3128  
 JA十勝池田町 572-3131  
 高島支所 573-2111  
 池田町産業振興課 572-3118

農作物の生育・作業の状況（池田町 8月1日）（ ）内は平年値、

作物名	遅速 日数	生育状況	農作業状況
秋まき小麦	+4	稈長 87.4 (75.3)cm 穂長 8.6 (9.1)cm 穂数 764 (640)本/m <sup>2</sup>	収穫期 7/26 (7/28) 収穫終 7/29 (8/1)
馬鈴しょ(メークイン)	+1	茎長 98.3 (80.1)cm 茎数 3.6 (3.5)本	
馬鈴しょ(男爵)	-	茎長 54.6 (-)cm 茎数 3.2 (-)本	
てん菜(移植)	+4	草丈 66.4 (57.8)cm 葉数 28.7 (24.0)枚 根周 31.1 (28.8)cm	
てん菜(直播)	+3	草丈 67.2 (55.5)cm 葉数 22.1 (21.0)枚 根周 24.8 (23.5)cm	
大豆	+6	草丈 64.3 (69.3)cm 葉数 9.1 (9.5)枚 開花期 7/16 (7/22)	
小豆	+3	草丈 45.2 (31.9)cm 葉数 8.6 (8.1)枚	
菜豆(金時)	+4	草丈 50.5 (49.7)cm 葉数 4.0 (4.1)枚 着莢数 101.2 (41.8)個/m <sup>2</sup> 開花期 7/12 (7/15)	
菜豆(福勝)	-	草丈 50.4 (-)cm 葉数 4.0 (-)枚 着莢数 73.0 (-)個/m <sup>2</sup> 開花期 7/17 (-)	
菜豆(手亡)	+4	草丈 41.2 (52.9)cm 葉数 7.1 (7.4)枚 着莢数 62.2 (35.0)個/m <sup>2</sup> 開花期 7/16 (7/19)	
牧草	±0	草丈 二番草 59.5 (59.0)cm	一番収穫終 7/27 (7/16)
サイレージ用 とうもろこし	+1	草丈 264.2 (263.0)cm 出葉数 16.6 (16.4)枚	
直播たまねぎ	-	草丈 84.1 (-) 生葉数 8.0 (-)枚 葉鞘茎 19.6 (-)mm 球径 69.7 (-)mm	

## 1 小麦

### (1) 収穫後のほ場管理

#### ア 麦稈の処理

- ① 収穫後の麦稈は速やかに搬出しましょう。
- ② 特に、立枯病や条斑病など土壌病害が発生したほ場では、病気のまん延を防ぐため、麦稈をすき込まずに持ち出し、堆肥化しましょう。また、2～3年は麦の作付けを避けましょう。

- ③ 麦稈をすき込む場合は、窒素流亡による環境負荷を低減するため、後作に作物や緑肥を栽培する場合を除き、窒素肥料の施用を避けましょう。

#### イ 多年生雑草対策

シバムギ・レッドトップ・ギシギシなど多年生雑草が多い小麦畑が散見されます。

多年生雑草対策には耕起前の除草剤茎葉処理が有効です。

【多年生雑草の処理方法（グリホサート系除草剤）】

小麦収穫 → 雑草が 15cm 以上に再生 → 除草剤散布 → 耕起

※少水量散布時は専用ノズルを使用する。

※通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要します。

表 1 耕起前の除草剤例

農薬名	処理方法・使用時期	薬量 (ml/10a)	回数	注意事項
ラウンドアップ マックスロード	耕起前・雑草生育期 水量 25～100ℓ	200～500	3 回	各薬剤共通 ・多年生雑草が 15cm 以上再生後に散布。 ・展着剤を加用しない。 ・散布後 6 時間は降雨がない日に散布。(ラウンドアップマックスロードは 1 時間、タッチダウン iQ は 3 時間) ・周辺作物に飛散しないよう注意するとともにドリフト低減ノズルの使用が望ましい。
タッチダウン iQ	一年生イネ科雑草 耕起又は播種前 (雑草生育期)	250～500	1 回	
	多年生イネ科雑草 耕起 3 日以前 (雑草生育期)	500～1,000		
クサトリキング	多年生イネ科雑草 耕起前まで(雑草生育期草丈 30cm 以下)	250～1,000	3 回	
	多年生雑草 耕起 7 日前まで(雑草生育期草 丈 30cm 以下)	500～1,000		

#### ウ 収穫跡地の後作緑肥作付

① 後作にながいも・ごぼうなどを作付けする場合は、キタネグサレセンチュウ対策のため、えん麦野生種が有効です。

② えん麦野生種には、ばれいしょのそうか病軽減効果や小豆落葉病の抑制効果もあります。表 2 を参考に、ほ場の条件に応じた緑肥を選定しましょう。

表 2 小麦後作緑肥の栽培例（北海道緑肥作物等栽培指針）

緑肥作物名	は種時期	は種量 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)			すき込み 時期
			窒素	リン酸	カリ	
えん麦（一般）	8 月上～中旬	15～20	4～6	5～10	0～5	10 月 中旬 ～
えん麦野生種（ハイオーツ、サイヤー）		10～20	5	5	0～5	
シロカラシ類(キカラシ)※1、2	8 月上～下旬	2	5～8	5～10	0～7	10 月 下旬
ひまわり(りん蔵) ※2	8 月上～下旬	1.5～2	4～6	8～10	0～10	

※1 そうか病発生ほ場では前作として用いない。

根こぼ病発生ので、前作又は後作にアブラナ科野菜の作付けはしない。

※2 キタネコブセンチュウやキタネグサレセンチュウの密度を高めるので、後作物の選定に注意する。

## 2 ばれいしょ

茎長が長く倒伏も発生し、病害が発生しやすい状況です。適正な防除を実施して下さい。

### (1) 疫病の防除

表3 疫病の防除薬剤例

薬剤名	使用濃度 (倍)	RAC コード	使用時期 (収穫前)	総使用 回数 (以内)	浸透 移行性	効果の 発現	疫病以外の対象 病害(倍)	
							夏疫病	塊茎 腐敗
ランマン フロアブル	1,000～ 2,000	21	7日	4回	浸達性※ のみ	予防	—	1,500
レーバス フロアブル	1,500～ 2,000	40	7日	2回	浸達性 のみ	予防 治療	—	1,500

浸透移行性とは・・・有効成分が植物の体内で移動する性質のこと。

浸達性とは・・・有効成分が葉の表面から裏面へしみ込む性質のこと。植物体内を移動しない。

### (2) アブラムシ類・オオニジュウヤホシテントウの防除

ほ場をよく観察し、害虫の発生状況、収穫前日数を考慮して防除を検討してください。特に林地や防風林近くでの多発に注意してください。

表4 アブラムシ類・オオニジュウヤホシテントウの防除薬剤例

農薬名	RAC コード	対象害虫		使用 濃度	使用 時期	使用 回数
		アブラムシ類 ※	オオニジュウ ヤホシテントウ			
アドマイヤー 顆粒水和剤	4 A	◎ (ジャガ、モモ、ワタ)	◎	5,000～ 15,000倍	収穫14日 前	2回 以内
ベジホン乳剤	1 B・3 A	◎ (ジャガ、ワタ)		1,000～ 2,000倍	収穫30日 前	2回 以内
デナボン水和 剤	1 A	◎ (ワタ)	○	1,000倍	収穫7日 前	3回 以内
モスピランS L液剤	4 A	◎ (ワタ)	◎	4,000倍	収穫7日 前	3回 以内
ゲットアウト WDG	3 A	◎ (ジャガ、モモ)		2,000～ 3,000倍	収穫7日 前	4回 以内
アクタラ顆粒 水溶剤	4 A	◎ (ジャガ、ワタ)	○	2,000～ 3,000倍	収穫14日 前	3回 以内
ペイオフME 液剤	3 A	◎ (ジャガ、ワタ)	◎	1,000～ 2,000倍	収穫7日 前	4回 以内
ウララDF	2 9	◎ (ジャガ、モモ、ワタ)		2,000～ 4,000倍	収穫7日 前	2回 以内

※ジャガ:ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモ:モモアカアブラムシ、ワタ:ワタアブラムシ

※◎は登録があり、道ガイドに掲載されているもの、○は登録があるもの(以下、同じ)

※モベントフロアブルは銅ストマイ水和剤とは混用しない(ストレーナに付着物が生じる)。また、ストレプトマイシン含有殺菌剤との混用の場合は、モベントフロアブルを先に希釈する。

### (4) 茎葉処理

#### ア 薬剤処理による方法

茎葉枯凋剤の散布は塊茎が目標の大きさに達した時期に、晴天無風の日を選んで散布してください。

表5 茎葉枯凋処理剤

農薬名	使用量(mℓ /10a)	水量(ℓ /10a)	使用時期	使用回数(以内)
デシカン乳剤	250～450	100	茎葉黄変始～収穫3日前まで	2回

※接触剤のため茎葉にまんべんなく薬剤を付着させる。

※茎葉黄変期前に使用した場合、枯凋が不完全になる場合がある。

※処理後2～3時間以内に、降雨が予想される場合には使用を避ける。

※生理的ストレスにより維管束褐変を生じやすいので、土壌が極端に乾燥しているときは使用を避ける。

※散布の際にはドリフトを起こさないように注意。

イ リーフチョッパーを使用する場合

①茎葉処理作業は茎葉黄変期後の好天時に作業する。

②塊茎の損傷や緑化防止のため、刈取り高さは培土を崩さないよう地表から余裕をもたせて処理する。

③後部に石れきが飛散しやすく危険なので、周囲に人がいないことを確認後処理する。

3 豆 類

豆類全般的に生育、開花が進んでいます。管理作業や病害虫防除のタイミングが遅れないように注意しましょう。

(1) 大豆の菌核病防除

開花始後10～15日目に第1回散布をし、2回目以降は発生状況に応じて10日毎に防除しましょう。

表6 大豆菌核病の防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	備考
トップジンM水和剤	1	700～1,000	14日	4回	
ファンタジスタ顆粒水和剤	11	2,000	7日	3回	紫斑病に3000倍で登録あり

(2) マメシクイガの防除(大豆)

ア マメシクイガは莢伸長始(およそ半分の株に2～3cmの莢が認められた日)になってから6日後(開花約16日後)に1回目の薬剤散布を行い、その10日後に2回目を行います。

イ 1回目か2回目にカメムシに効果の高い薬剤を散布すると、同時防除ができます。

表7 マメシクイガの防除薬剤例

薬剤名	RAC コード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	備考
ゲットアウトWDG	3A	3000	7日	3回	カメムシ類に対し効果が高い。アブラムシ類に登録あり
スミチオン乳剤	1B	1,000～1,500	21日	4回	カメムシ類に登録あり

### (3) 小豆・菜豆の病害虫防除

#### ア 菌核病、灰色かび病の防除（小豆・菜豆）

開花後に曇雨天が続くと発病しやすくなります。ほ場の生育に合わせて、適期防除に努めてください。

##### ◎ 小豆防除適期

1回目：開花始後 7～10日目

2回目：1回目防除の10日後

##### ◎ 菜豆防除適期

1回目：開花始後 5～7日目

2回目：1回目防除の10日後

表8 小豆・菜豆 菌核病、灰色かび病を中心とした防除薬剤

薬剤名	RACコード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	炭そ病 (倍)
オルフィン フロアブル	7	2,000	7日	3回	—
ブロードワン 顆粒水和剤※1	1・9	1,000	14日	4回	○
プライア 水和剤	10・9	1,000	14日	4回	○
ファンタジスタ 顆粒水和剤	11	2,000	7日	3回	○
フロンサイド SC	29	1,000	【小豆】21日 【菜豆】7日	3回	1,000～2,000
トップジンM 水和剤※1	1	菌核病 700～1,000 輪紋病 1,000※2	【小豆】14日 【菜豆】7日	4回	【小豆】 1,000 【菜豆】 700～1,000

※1 ブロードワン顆粒水和剤、トップジンM水和剤はチオファネートメチルを含むので、総使用回数は、は種後4回以内です。

※2 菜豆には登録無し

#### ウ アブラムシ類・アズキノメイガ・ダニ防除（小豆）

マメアブラムシの発生が確認されています。発生状況に応じて防除してください。アズキノメイガは開花始の7～10日後に薬剤散布を行ってください。

表9 小豆のアブラムシ類・アズキノメイガ・ダニ防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度 (倍)	使用時期 (収穫前)	使用回数 (以内)	アブラ ムシ 類	アズキ ノ メイガ	ナミ ハ ダ ニ	カ メ ム シ
モスピランSL液剤	4A	2,000～ 4,000	14日	3回	○	○ 2,000 倍		
ゲットアウトWDG	3A	3,000	7日	3回	○	○		
ペイオフME液剤	3A	2,000	7日	3回	○	○		
スミチオン乳剤	1B	1,000	21日	4回	○	○		○
ウララDF	29	4,000	7日	2回	○			
ダニトロンフロアブル	21A	1,000	7日	1回			○	

## 4 てんさい

生育は平年より3～4日進んでいます。褐斑病の初発、ヨトウガの食害が確認されています。ほ場を良く観察し病害虫の発生に応じた適期防除に努めてください。

### (1) 褐斑病の防除

褐斑病は高温条件で被害が広がります。ほ場の発病状況を確認し発生初期には遅れずに防除します。また、DMI剤（RACコード3）およびカスガマイシン剤（RACコード24）は道内で広く耐性菌の発生が確認されています。

可能な限り使用回数を低減してください。また、DMI剤はマンゼブ剤（RACコードM3）と同時に使用しましょう。

表10 褐斑病防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	浸透移行性	薬剤特性	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
グリーンダイセンM水和剤	M3	500	×	予	21日	5回
ホクガード乳剤	3	1,000～1,500	○	予治	14日	2回
どさんこスター水和剤	3・M3	500	○	予治	21日	4回
カスミンボルドー	24・M1	800～1,000	○	予治	7日	5回

\*マンゼブ（RACコードM3）を含む剤の総使用回数は5回まで。

### (2) アブラムシ類の防除

8月中旬以降の発生状況により薬剤処理回数の削減を検討しましょう。ヨトウガは幼虫が大きくなるにつれて薬剤の効果が低減しますので、食害を確認したら速やかに防除しましょう。

表11 アブラムシの防除薬剤例

農薬名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	回数(以内)
ダントツ水溶剤	4A	2,000～4,000	14日	3回
リーズン顆粒水和剤	4A・15	3,000	14日	2回
アクタラ顆粒水溶剤	4A	3,000	7日	3回
モスピランSL液剤	4A	4,000	3日	3回

### (3) 葉腐病の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。発生が見られたら直ちに防除を行ってください。

表12 葉腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期(収穫前)	使用回数(以内)
モンカットフロアブル40	7	1,000	14日前	4回
モンセレン顆粒水和剤	20	1,000	30日前	4回※
リンバー顆粒水和剤	7	4,000	7日前	3回

※育苗中を含む。

ほのぼの情報や農作物防除基準を参考に適正防除に努めてください。